

「県立高田農業高等学校 GLOBAL G.A.P. 認証公開審査会」 が開催されました（令和5年9月22日）。

高田農業高校では生物資源科農業生産コース作物専攻の生徒さんが中心となり、令和3年に県内高校では初めてとなる「GLOBAL G.A.P.認証」を取得しています。

今回、高校側のご厚意で認証継続のための公開審査にお誘いいただき、9月22日の審査会にお邪魔させていただきましたので、その様子をお伝えします。



当日は公開審査とあって、国や県、他校の関係者等も見守る中、9名の生徒さんは緊張の面持ちで審査に臨んでいました。審査内容はほ場や作業場、資材庫や薬品庫の確認、書類審査など多岐に渡ります。午前はずまず書類確認から始まりました。本年はコンサルを通さず、アプリの「MOG-GAP」システムを活用し、生徒さん自らが認証に向けた生産工程の課題を抽出し改善に取り組んできたとのことでした。



現場審査では施肥や水管理等の方法のほか、農場に必要な各種掲示や安全確保に向けた農機具の管理状況の確認を行いました。ほ場では作業工程も審査対象で、生徒さんは手慣れた手つきで稲の収穫のデモンストレーションを行いました。



敷地内にあるライスセンター（乾燥・調製施設）では、使用する機械や製品（お米）への異物混入防止対策や農作業事故防止に向けた取組等を確認しました。ライスセンターの内部はどこも整理整頓が徹底されていてクリーンに保たれており、審査員からもお褒めの言葉をいただいていたのが印象的でした。



農薬を保管する薬品庫やお米を保管する低温冷蔵庫の受払簿の確認はもちろん、鍵の保管場所や管理責任者についても細かく確認が行われました。今回の審査会では、は種作業から出荷されるまでのすべての工程のあらゆるリスク管理について一つ一つ洗い出し、対応とその記録を全員で確認したことで「GAP=農場管理を適切に実施していること」を「見える化」できたのではないかと思います。



最後は実習室に移動し、労働安全のための防護具の点検と、使用具等の適切な洗浄工程について確認を行いました。生徒さんは審査員の言葉を聞き逃さないよう、メモを取り続けるとともに工程ごとに分担しながら動画の撮影も行っていました。

審査会は朝9時から夕方6時過ぎまでの長丁場となりましたが、生徒さんたち全員が真剣に審査員と向き合う姿を拝見し、頼もしさを覚えるとともに、近い将来、皆さん一人ひとりが社会に大きく羽ばたく姿を想像し、微笑ましい気持ちを抱きながら岐路につくことができた公開審査会となりました。

高田農業高校のみなさん、ありがとうございました。